

地理歴史科（日本史 B）学習指導案

指導教諭 印
指導者 印

1 日時 平成 30 年 6 月 14 日（木曜日）第 5 校時

2 学級 第 2 学年 5 組（男子 14 人 女子 26 人）

3 単元 平城京の時代

4 単元設定の理由

（1）教材観

本単元で扱う 8 世紀は律令国家による政治体制が確立された時代である。このような時代背景の中、中央政府の動向と地方の体制、民衆の生活、外交関係の 4 項目で単元が構成されている。中央政府の動向では皇族が中心として政治を行われる中で臣下である藤原氏が台頭してきたこと、地方の体制では国衙、郡家が設置され国司、郡司らによって統治されていたこと、民衆の生活では、民衆が重税や労役に苦しんでいたこと、外交関係では唐、新羅、渤海との通交がもたらした政治的、文化的、経済的影響を捉えさせる。

それぞれの項目において各事象がどのような背景の中で何故起こったのか、また各項目それぞれの時代の関係を考察することで当時の社会の様子の全体像を大きな視点で捉えさせたい。

（2）生徒観

2 年 5 組の生徒は普段は明るく元気な様子であり、授業中は集中して学習に取り組む生徒が多い。また、授業にあまり集中できない生徒や授業中の発問には答えられることはあるがグループでの討議などを主体的に行うことが苦手な生徒も少なくない。しかし個々で考える力を持っていたりや授業内容のエピソードに対する関心を示す生徒は多く見受けられる。そのため事象に関係するエピソード資料やスライドによって生徒がより興味関心を持ち主体的に学習したり発言したりできるようにしたい。

(3) 指導観

複数の人物の動向に注目し、中央、地方での違いに注目するため、項目ごとにテーマやキーワードを設定し、生徒が何に注目すればいいのか、何を理解すべきかという授業目標を明確にしたうえで授業を展開していく。板書や口頭での歴史的事象の説明だけでなく史料や写真などを使い視覚的に、また、グループやペアでの討議などを行い生徒がより主体的に自分の意見を持ち歴史の解釈をすすめさせる。また、グループやペア、または個人で考察を行わせた後、事象の背景や関連する語句などの知識を定着させ歴史的事象の流れについて口頭や文章で表現させたい。

5 単元の目標

- (1) 遣唐使や留学生たちが果たした役割について理解させ、航海の苦難を知る。
- (2) 平城京の都城としての特徴や人々の生活、流通経済の実情を理解する。
- (3) 律令国家における地方官衙の様相や交通制度を地図や図表でおさえさせる。
- (4) 皇親勢力と藤原氏の政権をめぐる抗争の過程を正しく理解し、国分寺、大仏造立の政治的、社会的背景を捉えさせる。
- (5) 律令下の農民の生活の実態を考察する。土地政策の変化による私有地拡大と初期荘園の形成過程をとらえる。

6 単元の指導計画 (5 時間)

遣唐使、奈良の都平城京、地方官衙と「辺境」

藤原氏の進出と政界の動揺 1

藤原氏の進出と政界の動向 2

政界の動揺まとめ (本時)

民衆と土地政策

7 本時の目標

奈良時代の各政変について、各事象に関連する人物や語句について内容について流れや因果関係をふまえて各事象を考え表現させる。

僧侶による政権という特異な政治形態が生まれた理由を天皇権力との関係から考察させる。

8 評価の観点

関心・意欲・態度	知識・理解	思考・判断	技能・表現
奈良時代の各政変について関心を持つ。	各政変に関連する人物、語句を挙げることができる。	各政変について起きた背景や影響について考察できる。	各政変の流れをまとめることができる。

9 本時の授業展開

過程	学習内容	学習活動	留意点および評価
導入 (5分)	奈良時代の政変（復習） 長屋王の変 橘奈良麻呂の変 藤原仲麻呂の乱 宇佐八幡宮神託事件	藤原広嗣の乱について簡単に紹介し本時の学習内容を理解する。 発問「奈良時代の政変を挙げてみよう」	○政変を挙げるができる 【知識・理解】
展開 (40分)	長屋王の変について 橘奈良麻呂の変について 道鏡の台頭と藤原仲麻呂の乱について	長屋王の変について、発問を交えながら関連する人物、語句を答える。 発問「誰と誰の争いか」「なぜ起こったか」 長屋王の変についてまとめる。 橘奈良麻呂の変について、何年に起こったか、誰が関わったか学習する。 道鏡の台頭（仏教勢力の巨大化）について考える。 藤原仲麻呂の乱について関連する語句、人物を挙げさせる。 藤原仲麻呂の変についてまとめる。	○発問に答え授業に参加できる【関心・意欲・態度】 ・光明子立後の重要性についても触れておく ○なぜ起こったか考える 【思考・判断】 ○各事象について関連人物を挙げられる、内容を理解できる【知識・理解】 ○どのようにして台頭したか、なぜ起こったか考え。 【思考・判断】 ・孝謙上皇と道鏡の関係を考えさせる

		<p>もし自分が藤原百川ならこう した政変の後どう行動するか 考える。</p>	<p>○各事象について関連人物を 挙げるができるか、内容 を理解できる 【知識・理解】</p> <p>○背景に道鏡の台頭があった ことを理解する。【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ孝謙上皇は重祚したか 考えさせる <p>○内容について語句を使いま とめられる【技能・表現】</p> <p>○各政変が起こった背景や影 響について触れる 【思考・判断】</p> <p>○打開策を発表する 【技能・表現】</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>本時のまとめ</p>	<p>皇族と藤原氏の権力争いから 仏教勢力の台頭があったこと を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鎮護国家の思想により仏教 勢力が政治に介入してきたこ とに気づかせる ・仏教勢力の排除のため遷都 が行われたことにつなげる